

「研究テーマ」

新聞作りを通じた思考力・判断力

篠山市立味間小学校 教諭 山本 美由紀・竹山 智保

○はじめに

本校では、今年度から NIE 教育に取り組んでいる。

児童にとって新聞が身近なものになるようにと、玄関前に 6 社の新聞を置き、いつでも閲覧できるようにした。1 年生から 6 年生まで、新聞を手取る姿が多く見られ、深く読んだり、記事についての感想を言ったりする児童もおり、新聞への関心が高まっているのを感じた。

そこで、本校では、3～6 年生までに新聞についてのアンケートを行った。(7 月)

質問；新聞は読みますか。

	読む	時々読む	読まない
3 年	33%	53%	14%
4 年	20%	46%	34%
5 年	22%	50%	28%
6 年	23%	51%	26%

結果によると、3・4 年生は半数以上が、5・6 年生は 7～8 割が、新聞を読むと答えており、NIE の取組により、家と学校で新聞を読む機会が増えたことがわかる。(4 月当初、子供達に尋ねてみると、新聞を読むと答えた児童がどの学年も半分以下であった。) NIE



に取り組むことで、新聞の面白さに気づいた児童もおり、環境を整える大切さを実感した。

○各学年の取り組み

【3 年生の取り組み】

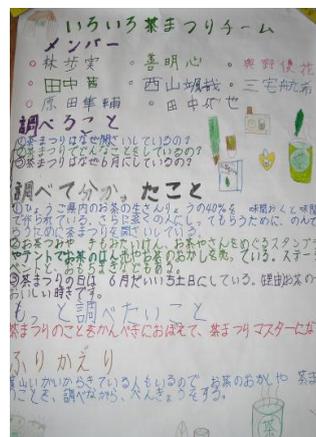
総合的な学習の時間（環境体験学習）

1. 「お茶マスターになろう」

味間茶の茶摘み体験を通して、調べてみたいことを探し、グループごとにわかれて調べた。種類、成分、茶まつり、道具など、本やチラシ、インタビューを用いて、各グループで行う。

- ①調べること
- ②調べてわかったこと
- ③今後調べたいこと
- ④ふり返り

の 4 項目をおき、模造紙にまとめる。



項目があれば、役割を決め、スムーズに進めることができた。見やすく色分けをしたり、文字の大きさを変えたりするなど、工夫しながら作成した。

2. 「黒豆マスターになろう」

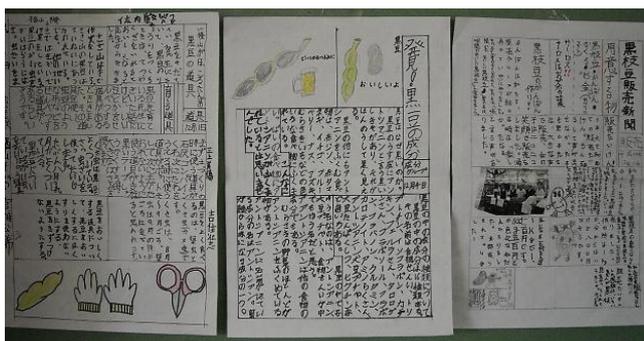
黒豆を育てる際に、必要な道具、成分、料理などに関心を持ち、調べた。

「お茶マスターになろう」と同様に行うが、模造紙から方眼紙に変え、グループごとに書

く項目は、異なった。方眼紙に変えたことで、振り分けや大きさを考える場面が多くあった。新聞を見本にし、どのようにわけたらいいのかを学んだ。

【4年生の取り組み】

1. 体験をもとにした新聞作り（総合的な学習）



(1) アイマスク体験と車いす体験

- ・体験の中で、気を付けたこと、感じたことなどの感想をワークシートにまとめる。

(2) 校内のバリアフリー調べ

(3) 丹南健康福祉センターの方や目が不自由な方との触れ合い

- ① ワークシートにメモをとり、話を聞く。

- ② 下記の項目に気を付けて、「福祉新聞」にまとめる。

(ア) 生活の中の工夫

(イ) 私たちにできること

(ウ) 驚いたこと、感じたこと



新聞作りは、枠があると、作りやすい様子だった。中には、A4の真っ白い紙に、自分で枠を描き、区切る児童もいた。各社の新聞

を読んで学習した「見出し」を取り入れながらまとめた。イラストや写真を入れ、色分けもしながら、分かりやすく仕上げる児童もいた。

2. 新聞等の情報の掲示

4年生の廊下にある掲示板に、「子ども新聞」や、教科に関するチラシを掲示する。

- ・国語科「ごんぎつね」に関連して、「新美南吉生誕百周年」
- ・社会科「浄水場・下水処理場」のはたらきや仕組み
- ・理科では、金環日食や金星の太陽面通過の現象

季節や教科にタイムリーな情報を子どもたちに発信した。

児童のなかには、新聞をもとにして、チャレンジ学習



（自主学习）にまとめる児童もいた。

また、まとめた新聞、模造紙を各クラス、みんなの前で発表した。



○今後の課題○

- ・新聞の掲示を行ってきたが、自分から進んで、読み、調べる児童は少ない。もっと、新聞に触れ、自ら新聞を読み、調べられる活動を取り入れていきたい。
- ・見出しの書き方や文章のまとめ方に慣れず、見本や参考書類のまままとめる児童が多い。自分なりの言葉でまとめられるようにしたい。

【5年生の取り組み】

1. 地名探し（社会科）

新聞に掲載された地名を地図帳で探させた。テレビのニュースで見たり聞いたりした地名であるので「俺そこ知ってる！」と興味を持って地名を探す姿が見られた。

この作業を繰り返すことで、新聞という紙媒体で表記されている地名と、実世界の地名がリンクし、更に社会科に意欲的に取り組む児童が増えた。



よ～し、一番に見つけるぞ！

2. 天気予報を使って（理科）

社会科で沖縄県の学習をした。その際に、児童が住んでいる兵庫県と沖縄県の気温差を感じさせるために、新聞の「天気予報」の欄を活用した。



沖縄県は暑いなあ！

授業当日の兵庫県と沖縄県の最高気温と最低気温を比較することで沖縄県の気候の特徴

をつかむことができた。



3. 朝の話題提示

新聞を教室に持ち上がり、一面の大きな事件や出来事を紹介することを何度か行った。

普段、ニュースに興味がない児童も、こういう機会を設けることで社会に目を向ける良い機会になると感じた。

【6年生の取り組み】

1. 平和新聞づくり（総合的な学習）

総合的な学習の時間で、平和学習に取り組んだ。班活動で学習を進め、班で話し合い、一人一人がテーマを決めて調べ学習をし、模造紙に一枚の新聞としてまとめた。



2. 広島での平和学習（夏休みの課題）

夏休みの宿題で、平和についての新聞の記事を切り抜き、集めさせた。

広島での修学旅行に向けて、集めた新聞記事や調べたことをまとめて、レポート集を作成した。

3. 新聞社の方を講師に招いて（総合的な学習）

新聞の作り方について、新聞社の方を講師に招いて、学習した。1学期に作った「平和新聞」をもとに、特に、次のことについて、詳しく教えてもらった。

- ・見出しの付け方…内容が短く分かりやすくまとめてつける。
- ・内容の書き方…結論から書く。

4. パソコンで新聞づくり（国語科）

国語科「地域の良さを紹介しよう」の学習で、地域の歴史や文化について、一人一人が調べ、フリーソフトを使って、パソコンで新聞を作った。初めは難しく苦勞していた児童が多かったが、徐々に慣れ、楽しそうに取り組んでいた。新聞社の方に教えてもらった「見出しの付け方」や「内容の書き方」に気を付けて作成した。



〇おわりに

①成果

- (1) 新聞が身近なものになった。
- (2) 自分のふるさつを見直すきっかけになった。
- (3) 社会科学習での活用が活発にできた。
- (4) 新聞作りで、「見出しの付け方」や「内容の書き方（5W1H）」が、意識して使えるようになった。
- (5) 社会に目を向ける機会となった。

②これからの課題

教師が見つけた記事を紹介することにより、社会に目を向けたり、学習に深まりが生まれたりした。教師が、新聞を授業に生かそうとする心構えが大切であると共に、教育課程の中に新聞を位置づけ、共有することが重要である。そのためにも、日ごろから教師も記事をスクラップして、いつでも活用できるようにしておきたい。

長期休業中に、平和について記事のスクラップ作業を課題にして取り組んだ。漢字や内容など、子どもにとって難しい面があるので、家庭との連携が不可欠だと感じた。

新聞は、「政治」「経済」「社会」「スポーツ」など、社会全体のことが書かれており、世界から自分の住んでいる地域のことまで知ることができる。また、著名人から一般の人たちまで様々な年代の人の考えに触れることもできる。新聞を読めば、社会が広がり、ものの考え方も広がる。今後も、新聞を活用して、情報を整理する力やコミュニケーション能力を伸ばし、さらに、自分の考えを表現し、学び合う子どもを育成していきたい。